

現庁舎跡地利活用及びまちなか再生・賑わい波及検討分科会での主な審議内容について

7/13に第5回現庁舎跡地（周辺）利活用検討分科会、まちなか再生・賑わい波及検討分科会を合同で開催。

- ・6月の市議会特別委員会において示されたご意見や、7月に最終回を迎えた「くまもとまちづくりラボ」でいただいたアイデア等について報告。
- ・今後のまちづくりプランの進め方や考慮すべき視点、前回検討委員会で示した「各ゾーンの目指すべき姿」の市民への伝え方等について議論。

■ 庁舎周辺まちづくりプランの進め方について

【主なご意見】

- 現庁舎跡地に関する検討については、新庁舎整備の検証経過を見ながら、慎重に進めていくべき。
- 地権者が老朽化の課題があるにも関わらず、建設費高騰から建替えに一步踏み出せない状況等を踏まえると、まちなか再生・賑わい波及検討分科会に関連する中心部のまちづくりについては、予定通り粛々と進めるべき。
- 物価高騰や経済状況の変化など不確定要素が多い中、まちづくりプランは市場の動向や地域の意見等を踏まえながら、柔軟に修正していくスタンスが重要。

【分科会としての総括】

- ➡「まちづくりプラン」そのものは、予定どおり令和8年度末の策定を目指し、民間の建替えや賑わい創出の支援をしていくべき。一方で、現庁舎跡地については、新庁舎整備の検証状況を見極めながら、プラン策定後に具体的な内容を反映させていく。

■ くまもとまちづくりラボでのご意見・アイデアについて

【主なご意見】

- ※別途、資料3にて説明

【分科会としての総括】

- ➡各チーム“熊本らしい個性や魅力”と“都市の発展”を両立させるという切り口から議論を転換しており、課題やポテンシャルに関する受け止めも「まちづくりプラン」で議論してきたことと通じる。本分科会での意見も踏まえ、考慮すべき視点等について事務局で整理し、検討委員会に示す。

■ 各ゾーンの目指すべき姿 等について

【主なご意見】

<目指すべき姿の表し方に関すること>

- 市民等へ分かりやすく伝えるように、例えば、低層部への賑わい機能導入や公開空地の確保、敷地の集約化、庇や緑陰などによる暑熱対策などの取組のイメージを視覚的に示すことに加え、人の活動やエリア周辺への賑わい波及などについても表現できると良い。

<回遊性向上に関すること>

- 熊本の歴史、自然、景観、個性あふれる街並みや地上に集約された交通インフラ等の特性を踏まえると地上レベルでの回遊性向上を図ることが望ましいと思う。人は目的地から目的地へ移動することで回遊するため、店舗等の滞在空間や休憩所等とそれらをつなぐ動線がうまく連動することが大事。
- 地上レベルでの回遊をメインに考えていく上では、滞在環境の創出や歩行環境の向上等を具体的にどう進めていくかが重要。他都市では、庇を出し合ったり、緑陰を連続して設けることで回遊を促しているケースがある。熊本ならではの形を描いて、市民や関係者と共有することが大事。

【分科会としての総括】

- ➡市民や実際に整備を行う主体に、市が望ましいと考えているイメージを共有するため、今後、視覚的にわかりやすいイメージパース等を作成。また民間の建替えや賑わい創出の支援に向けた施策の方向性については、引き続き分科会で議論していく。